

事 務 連 絡
平成21年9月4日

社団法人 日本病院薬剤師会

平成21年度病院薬剤部門の現状調査に関する（Q&A）

平素より、日本病院薬剤師会の運営にご高配を賜り御礼申し上げます。
平成21年度病院薬剤部門の現状調査に関するQ&Aを作成いたしました。
ご確認の上、調査票にご記入くださいますようお願いいたします。

平成21年度病院薬剤部門の現状調査に関する (Q & A)

Q 1 設問6 3 後発医薬品の採用状況 (3) 採用割合 (数量ベース) は、どのように記載すればよろしいでしょうか？

A 1 数量ベースとは、薬価基準の規格単位ベースで、例えば錠剤の場合、1か月間に調剤した全錠数を数えて計算することを意味しております。

例 1 内用薬の場合

先発品不整脈治療薬	150mg	1錠	1日2回×4日間
先発品降圧薬	20mg	1錠	1日1回×4日間
後発品消化性潰瘍治療薬	20mg	1錠	1日1回×2日間

$$\Rightarrow (A) \text{ 内用薬} = \frac{1 \times 2}{(2 \times 4) + (1 \times 4) + (1 \times 2)} = 14\%$$

例 2 外用薬の場合

先発品眼科用薬 (アレルギー性結膜炎治療薬)	1瓶
後発品眼科用薬 (抗菌薬)	1瓶

$$\Rightarrow (B) \text{ 外用薬} = \frac{1}{1 + 1} = 50\%$$

例 3 注射剤の場合

先発品抗菌薬	1g 1瓶	× 2 / 日	3日間
後発品生理食塩液	100mL	× 2 / 日	3日間

$$\Rightarrow (C) \text{ 注射剤} = \frac{2 \times 3}{(2 \times 3) + (2 \times 3)} = 50\%$$

※集計を行うのが難しい場合は、空白としてください。